

# 条報

条報128号

発行日  
令和4年7月22日  
発行所  
ときわ会三条支部  
代表 高橋 誠一郎  
印刷所  
福岡印刷  
☎ (0256) 38-3319

地域の方と共に、大面っ子カルタの自慢の場所を全校で巡る  
(大面小 全校たて割り遠足「大面っ子タイム」)



## 再考 会員を支えるときわ会

支部長 高橋 誠一郎  
(S61年度 第三中学校)

令和五年度は、ときわ会創設150周年記念の年である。三条支部では、平成25年度に完成した「ときわ未来図」に託された支部会員の夢と希望の実現に向けて、これまでの10年間を取り組んできたとも言える。

「I LOVE 三条」くふるさとを愛し、世界に貢献する人材を育てる。これが10年前に教育像として掲げた理念であり、その集大成を為すべきが今年度である。当時、UDLとファシリテーションが手法として重点化され、子どもたちの思考を促す取組が多く展開されたことを思い出す。今日では当然のごとく実践されるが、近年はICTが加わり、ウイルス禍における関わり合いの有効な手立てとして、タブレット端末の活用術が劇的な変化をもたらしてもいる。いずれにせよ、三条支部は小中一貫して子どもの知的相互作用を活性化させ、深い思考を促す取組により、「学力の向上」と「人間関係づくり」をターゲットにしたことは間違いない。子どもの自己実現の帰結として「ふるさと三条を愛しながら世界に貢献する人材」となることを夢見てきたのである。また、組織としてのときわ会三条支部は全会員のつながりを一層深め、一丸となって教育課題に対応し「小中一貫教育こそ不易の手法」と表現するほど会員相互に自覚を促しながら会員一人一人の力量の向上に取り組んできたのである。

私がときわ会に入会させていた30数年の年月が過ぎた。ときわ会は常に時事の日常的な教育課題に正対すると共に、教育行政の教育改革にも明確にコミットし、必要な研修体制を構築してきた。そして、すべての会員の意識の向上、スキルアップ、さらに課題に正対できる強さのための仲間作りなどを支援してきたのである。私自身30数年、ときわ会員として、ときわ会から学ばせていただいたことや人とのつながりもたせていただいたこと、親睦を深めた楽しさ、喜び等々、計り知れない財産をいただいていたのだと実感する。150周年を前に今、支部長として、支部会員各位に対し、ときわ会の素晴らしさを享受してもらっているのかどうかと自問自答し、甚だ心配な心持ちとなっている。

折しも、『自らを高める会員一人一人を支えるときわ会』を今年度の活動の基本方針とするときわ会は会員を支えることを第一義として、自由に気軽に研修に参加したり企画したりできる「セレクト研修」を発足した。この「セレクト研修」と有能な各担当が運営する、三条支部の各種研修と親睦の集いが私の心配を払拭してくれることを強く願っている。真に一人一人を支えるときわ会となるには、やはり全会員の自覚を互いに促すチームの意識が必要だと確信する。10年前に私たちが強く覚悟した時のように。